

**55 糖尿病性神経障害における<sup>123</sup>I-MIBG 心筋シンチグラフィの有用性**

上遠野栄一、大和田憲司、三浦英介、武田寛人、鉄地川原正顕（太田西の内 循）、渡辺直彦、丸山幸夫（福島医大一内）

自律神経障害を伴う糖尿病患者では<sup>123</sup>I-MIBG の心臓への集積が低下する可能性が示唆されている。今回我々は冠動脈造影を施行した11例の糖尿病患者をtriopathy合併群4例と非合併群7例の2群に分類し、<sup>20</sup>Tlと<sup>123</sup>I-MIBG 心筋シンチグラフィを施行し両群間の差異を検討した。<sup>20</sup>Tlと<sup>123</sup>I-MIBG 心筋像は15分後の初期像と4時間後の遅延像を撮像した。<sup>20</sup>Tl像は全例で欠損を認めなかったが<sup>123</sup>I-MIBG 像ではtriopathy合併群は4例全例で心尖および下後壁に欠損を認めたのに対し非合併群では欠損を認めなかった。これら11例とも右冠動脈には有意狭窄がなかったことより糖尿病における交感神経障害は心尖および下壁により来しやすい可能性が示唆された。